

シライトマキバイ

(ベー貝、つぶ貝)



生態的特徴等

【生態】

オホーツク海、北海道から鹿島灘および日本海の水深100~400mの砂泥帯に生息するエゾバイ科に属する肉食性巻貝。雌雄異体である。殻長10cmに成長するのに約8年かかる(図1)。

【漁法と盛漁期】

本県では、主に沖合かご(7月~8月上旬)、底曳網(9月~翌6月)で漁獲される。沖合かごでは餌にイワシの切り身を用いる。

【利用】

刺身や酒蒸し、煮貝として利用される。

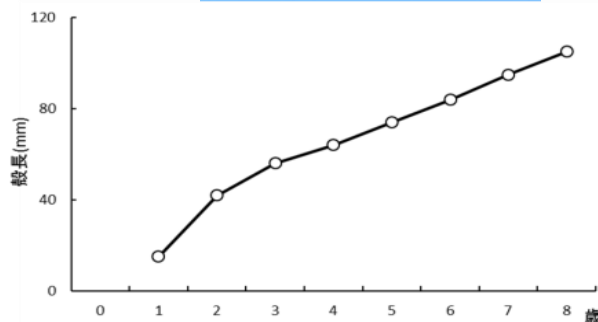


図1 シライトマキバイの成長

資源水準は低位、動向は横ばい傾向

(漁獲量) H6年には400トンを超える漁獲があったが、H14年以降は100~190トン前後で推移した。長期的に減少傾向で、R6年は前年と同程度の37トンであった(図2)。

(加入量) 近年、新規群の良好な加入は確認されていない。R6年のトロール調査においても、小型個体(殻長7cm未満)は少量であった。

(水準と動向) 資源水準は、調査船によるトロール調査においてシライトマキバイが入網した地点の分布密度の平均(有漁CPUE)(図3)から「低位」、動向は、有漁CPUEの直近5年間の推移から「横ばい」とした。

水準



動向

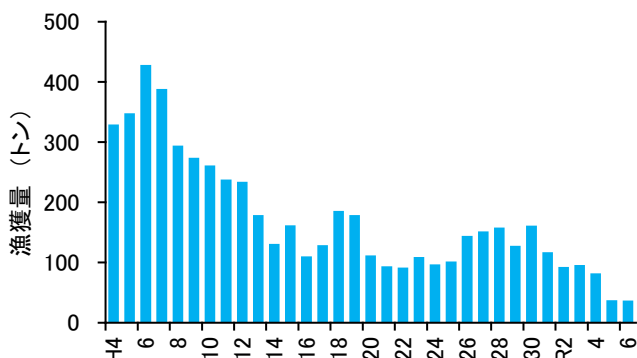
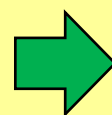


図2 シライトマキバイの漁獲量(水試集計、属地)

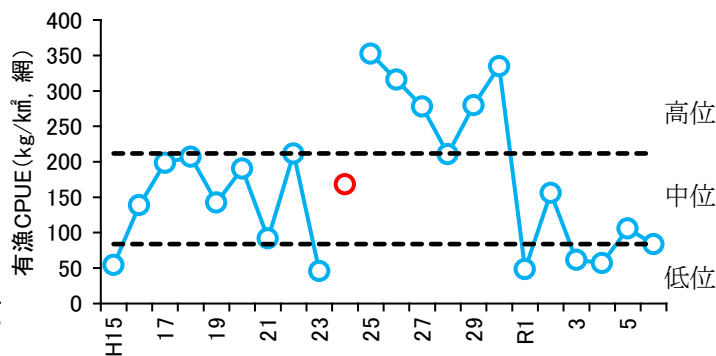


図3 シライトマキバイのCPUE(水試トロール調査)
※赤丸は調査データと漁獲データの相関から計算した参考値

【全国の漁獲動向】

・北海道から茨城沖が主な産地。

北海道などでは、トウダイツブガイ(エゾバイ属の総称)の名前で流通している。